

平成26年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 吉和 中学校

国語

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	自校	全国との差
基礎・活用	教科全体	67.9	70.7	60.9	-7.0
	基礎	70.4	72.7	63.3	-7.1
	活用	59.0	63.4	52.6	-6.4
領域	話すこと・聞くこと	74.7	77.2	72	-2.7
	書くこと	69.5	69.8	78.2	8.7
	読むこと	62.3	64.8	47.8	-14.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.1	74.2	62.1	-8.0
観点	国語への関心・意欲・態度	69.5	71.0	71.2	1.7
	話す・聞く能力	74.7	77.2	72.0	-2.7
	書く能力	66.3	67.4	72.9	6.6
	読む能力	62.3	64.8	47.8	-14.5
	言語についての知識・理解・技能	69.7	73.7	62.4	-7.3

【来年度の「基礎・基本」定着状況調査における目標値】

	教科全体	タイプⅠ	タイプⅡ
平成27年度	0	0	0

※県平均との差を記入する。

R 重点課題(観点)

1. 読む能力

①文章の展開に即して内容をとらえることができる。

②登場人物の心情をとらえることができる。

2. 言語についての知識・理解・技能

①小学校で学習した漢字を読むことができる。

②小学校で学習した漢字を書くことができる。

P D 重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

1-①

前後の文章のどこかに答えの根拠となる表現があることを理解させ、文脈にそって読んでいくことを理解させる。

1-②

前後の文章のどこかに答えの根拠となる表現があることを理解させ、文脈にそって読んでいくことを理解させる。

2-①

日常的な毎日100字の漢字のがんばり学習を充実させる。

2-②

日常的な毎日100字の漢字のがんばり学習を充実させる。

C 検証スケジュール

○授業評価表に基づき、授業観察をおこなうとともに、定期検査で定着状況を見る。

○漢字の宿題を充実させるとともに、定期検査で定着状況を見る。

平成26年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 吉和 中学校

社会

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	自校	全国との差
基礎・活用	教科全体	50.1	53.5	46.3	-3.8
	基礎	52.9	55.9	48.5	-4.4
	活用	34.0	39.6	33.3	-0.7
領域	世界の地域構成	70.8	76.2	67.5	-3.3
	世界各地の人々の生活と環境	62.4	63.6	60.6	-1.8
	世界の地域構成諸地域	44.0	47.9	37.7	-6.3
	古代までの日本	47.8	53.9	47.7	-0.1
	中世の日本	39.5	35.1	28.0	-11.5
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	41.4	45.6	38.0	-3.4
	社会的な思考・判断・表現	41.7	44.5	35.7	-6.0
	資料活用技能	52.4	55.0	47.0	-5.4
	社会的事象についての知識・理解	49.7	53.3	46.8	-2.9

R

重点課題(観点)

P

D

重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

C

検証スケジュール

1. 社会的な思考・判断・表現
 ①資料を読み取り、記述式に答える問題に課題がある。

②地理的分野のグラフを読み取ることに課題がある。

2. 資料活用技能
 ①地理的分野の気候と農業・産業を関連付けて資料を読み取ることに課題がある。

②歴史的分野の年表・資料を読み取ることに課題がある。

1-①毎時間の終わりにわかったことを自分の言葉で書かせる。

1-②データをもとにグラフを作成させ、データとグラフの関連性を理解させる。

2-①授業で地図帳・資料集等の資料に親しませ、気候と農業・産業に関連性があることを理解させる。

2-②時代ごとに小テスト(語句・年号)を行うなど、時代の流れをつかませる。

○定期テストに同様の問題を出題する。

○長期休業明けのテストで定着状況を確認する。

平成26年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 吉和 中学校

数 学

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	自校	全国との差
基礎・活用	教科全体	68.4	65.4	52.8	-15.6
	基礎	72.8	69.2	57.5	-15.3
	活用	52.0	50.8	35.2	-16.8
領域	数と計算	79.7	76.7	62.9	-16.8
	量と測定	67.1	65.0	52.0	-15.1
	図形	73.9	68.9	57.1	-16.8
観点	数量関係	53.7	51.2	39.6	-14.1
	数学への関心・意欲・態度	54.6	53.2	39.0	-15.6
	数学的な見方や考え方	55.0	53.0	37.5	-17.5
	数学的な技能	74.0	72.0	59.9	-14.1
	数量や図形などについての知識・理解	64.1	58.6	46.8	-17.3

【来年度の「基礎・基本」定着状況調査における目標値】

	教科全体	タイプⅠ	タイプⅡ
平成27年度	-10	-10	-10

※県平均との差を記入する。

R

重点課題(観点)

P

D

重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

C

検証スケジュール

1.
①分数の除法の商と除数の大きさの関係が理解できていない。
(通過率21.2%)

②半径が与えられた円の円周の長さの求め方を理解できていない。
(通過率12.1%)

2.
①必要な情報を読み取り、比の考え方をを使って必要な量を求めることに課題がある。
(通過率15.2%)

②比例の関係を用いて具体的な問題を解決することに課題がある。
(通過率9.1%)

1-①
分数の計算を反復して取り組ませる。

1-②
円周の求め方の指導を充実させる。

2-①
問題解決に必要な情報を読み取る工夫を充実させ、問題解決に反復して取り組ませる。

2-②
具体的な問題場面の中で、比例関係を活用して問題解決にあたる活動を充実させめ。

○定期試験に同様の問題を出題する。

○類似問題を作成し定着状況を看取る。

平成26年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 吉和 中学校

理科

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	本校	全国との差
基礎・活用	教科全体	63.6	59.4	43.8	-19.8
	基礎	63.5	59.3	44.2	-19.3
	活用	64.0	59.8	41.9	-22.1
領域	物質・エネルギー	63.2	58.1	42.0	-21.2
	生命・地球	63.8	60.2	45.0	-18.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	60.6	54.6	42.4	-18.2
	科学的な思考・表現	62.1	57.2	41.5	-20.6
	観察・実験の技能	75.3	70.6	54.0	-21.3
	自然事象についての知識・理解	62.0	58.4	44.4	-17.6

【来年度の「基礎・基本」定着状況調査における目標値】

	教科全体	タイプⅠ	タイプⅡ
平成27年度	-10	-10	-10

※県平均との差を記入する。

R

重点課題(観点)

P

D

重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

C

検証スケジュール

1. 自然事象についての知識・理解

①てんぷら油に火がついたとき、水にぬれたタオルをかけて消化ができる理由を説明できない。【全国平均42.4%、本校平均15.2%】

②蒸散についての基本的な知識がない。【全国平均55.7%、本校平均18.2%】

このことから、燃焼の際には空気(酸素)が必要とされることなどの現象に対する基本的な知識がない。

2. 科学的な思考・表現

①おもりを楽に持ち上げることができる方法を、この規則性から考えることができない。【全国平均44.2%、本校平均18.2%】

②水溶液の違いを調べた結果から、水溶液の溶質を推測できない。【全国平均39.8%、本校平均6.1%】

このことから、結果の分析や考察の部分に課題があり、正しい結論を導けていない。

①-1
基礎的、基本的な知識が不足しているため、問題が解けない。そのため、ドリル学習や小テストを行い、基礎的な知識を定着させる。

①-2
実験や観察の際に、基本的な知識を身に付けさせるため、3~4人の小集団での観察・実験を取り入れ、小集団に役割を持たせ、積極的に行動させる。

②-1
現象から、結論を導き出す場面では、考える視点を与え、思考を深めさせる。

②-2
思考を行うための基礎的な知識を身に付けさせるため、小テストやドリル学習などを課す。

○定期試験に同様の問題を出題する。

○夏休み明けテストなどのテストにおいて、類似問題を作成し定着状況を看取る。